

第14回レアメタル資源再生技術研究会

経産省・辻本氏など4氏が講演

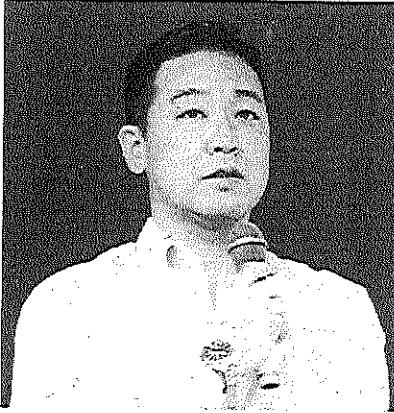
レアメタル資源再生技術研究会は25日、名古屋市内で第14回研究会を開催した。各講演の概要は以下の通り。

▽経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課 辻本圭助課長

資源ナシヨナリズムが先鋭化している現状を解説。レアメタル資源の備蓄に関して官民合わせて60日間分あることを示し、非常時にはこれを放出し、市場の安定を図ることを強調した。

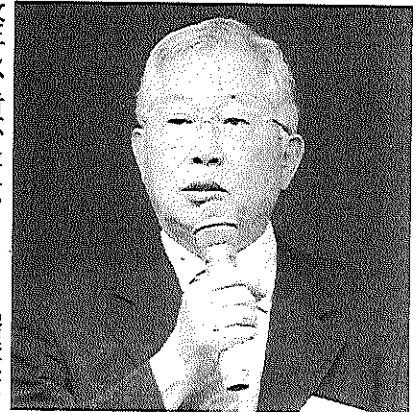
パール法の改正については雑品スクラップの不適合の問題などを指摘するとともに、それに対する対応を進めていく考えを示した。鉛バッテリーの不正輸出については6月より法

改正し、対応していくことなどを語った。



辻本圭助氏

祖恩教授 台湾の廃棄物の発生量は都市ゴミについて20年間で徐々に減少に転じ、一人当たりのゴミ発生量は日当たり

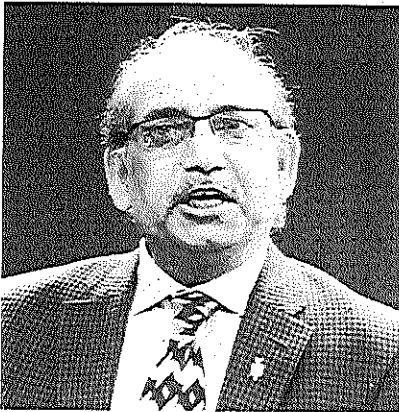


張祖恩氏

1・143キから0・378キに減少したことを示した。現在、台湾には24万所の焼却場があり、全体の廃棄物

処理量は635万トほど。焼却による発電量は3億3000万キロワットほどであり、台湾の電力供給を十分に満たしていると語った。

台湾の資源リサイクル産業については約5万人の雇用があり、そのうち3万人が清掃作業員、2万人が民間リサイクル業者と指摘。また、4つのリサイクル専門の工業団地を設置。現在



プラジエンドラ・ミシュラ氏

の一方、レアメタル、レアアースのリサイクル率に関する1%を割り込んでいることを指摘。

2016年に創立150周年を迎えた歴史を持つ。各種銅製品を年間130万ト



ヘラルドR.F.アルペア・フロレス氏

鉱石からは3・5%の金しかえられないが、1トの携帯電話からは200〜300gの金と2・5%の銀が得られるなどの

60工場が稼働しており、年商は年間300億台湾ドルに達することを明らかにした。

▽米国ウースター工科大学金属処理研究所 プラジエンドラ・ミシュラ所長

世界規模で金属生産が拡大しているのに対し、天然鉱石の品位が低下してきており、リサイクルのニーズが高まっているとの認識を示した。その一方、レアメタル、レアアースのリサイクル率に関する1%を割り込んでいることを指摘。

2000年から15年までの間にリユニオンリサイクルセンターでは約300億円を投じてきた。その中には生産工程改善に伴うものだけでなく、環境対応にも巨費をつぎ込み、企業としての責任を果たしてきた。ドイツのハンブルクには二次製錬所があり、1990年から創業を開始している。ここでは銅製錬に加え、電炉を用いた貴金属リサイクル処理を行っていることに特徴がある。【名古屋】

例を挙げ、都市鉱山の重要性を強調。持続可能性に対する影響については、米国には一次資源としてすべてのレアアースが存在していないと語り、回収選別の重要性を示すとともに、それ以前にリユースや分解しやすい設計にすることが必要だとの認識を示した。▽アウルビス社のヘラルドR.F.アルペア・フロレス博士

アウルビス社の企業概要や銅リサイクルの現状について語った。同社は世界トップクラスの銅リサイクル企業で、銅棒の生産量では世界1位の実績を誇っている。1866年の創業で、2016年に創立150周年を迎えた歴史を持つ。各種銅製品を年間130万ト